

一般質問 議:議員/理:理事者

- 新中学校の給食の運営方式と内容について
- 老老介護の勝山市の実態とその支援について

その他の質問

- ・結婚を希望する若者の出会いの提供について
- ・長尾山総合公園の駐車場の有料化について



富士根信子議員



議 地産地消・食育関係・食材や調理員との交流など現在の小学校給食のような心温かい雰囲気は存続されるのか。なぜ業務委託にするのか、なぜ市直営ではできないのかなどを含め、委託企業の業務内容や権限の範囲、また企業主導の運営とならないのか説明を伺う。

理 調理業務等を委託するが、新中学校でも現在の小学校と同様に自校式給食を提供し、地元事業者等から食材を調達し、給食室内で調理した温かい給食になる。市が業務マニュアルを整備し、法令順守を指導することで、市が主導して運営を実施する。

地産地消や食育は、栄養教諭と委託事業者が連携し、地元産食材を積極的に取り入れたメニューや調理員と生徒の交流、事業者からの特別メニューの提案などができるよう準備を進める。

業務委託により教育委員会の事務負担軽減を図るほか、民間事業者の優れた調理技術や衛生管理能力、調理人材の確保も含めた専門的なノウハウを活用し、安全安心で美味しい給食を安定して提供していきたい。

議 パートナーの介護のために、職を失い、わずかな年金だけの生活で困窮している家庭の話聞いた。このような家庭への支援についての考えと、勝山市の介護の実態や老老介護の状況とその対応について伺う。

理 本市の介護実態として、令和8年1月時点で1,534名が要介護認定を受け、約6割が在宅サービスを利用している。夫婦共に65歳以上の世帯は、令和7年3月末で999世帯である。老老介護は負担が大きく、経済的不安を抱える場合もある。

支援として、ケアマネジャーを中心にデイサービス等様々な介護サービスにつないだり紙おむつ助成事業を実施したりしている。その他、生活困窮世帯には福祉課や社会福祉協議会等と連携して支援する。高齢者の総合相談窓口として今後も地域包括支援センターを周知し、早期の相談・支援につなげる体制を維持していく。

一般質問 議:議員/理:理事者

- 勝山市の防災について
- 福祉政策について

その他の質問

- ・まちづくりについて



松山信裕議員



議 「雪害マイタイムライン」について、雪害を想定した、一人ひとりが行動を整理するマイタイムラインを導入すべき。

さらに個別避難計画について、避難行動要支援者登録を名簿で終わらせず、実効性のある個別避難計画をどの様に進めて行くのか。

理 生活用品の備え、燃料の確保、除雪のポイント等、市民に必要な事項については広報等で周知しているが、それぞれの家庭事情により行動は変わる。事前に行動する時期や内容を決めておくことは大切であり、市ホームページ等で事前に決めておくべき行動等について周知していく。

個別避難計画は、災害時に自力避難が困難な人の安全確保を図るための取組であり、「誰が、どこへ、どのように避難するか」を具体化することが重要と考えている。そのため福祉専門職と連携し、専門性を生かした計画づくりを検討していく。

議 重層的支援体制整備事業について、包括的な支援体制の構築をすべきと提案していた「重層的支援体制整備事業」が導入される。市としてどのように取り組んでいくのか。

また、障がい者雇用環境について、法定雇用率が令和8年7月から、民間企業は2.7%、地方公共団体、国は3.0%と引き上げられる。今後の支援策をどのように考えているのか。

理 本事業は、高齢、障がい、子ども、生活困窮など、各制度で分断されてきた支援を一体的に提供する仕組みを整えるもの。福祉課が調整役となり、関係機関が連携して組織的に対応する「よこ糸会議」等の体制を整え、支援の抜け落ちを防ぐ。また「すこやか」のレイアウトを変更して窓口機能を集約し、相談しやすい環境を整備する。

障がい者雇用については、ジョブコーチの活用や適切なマッチングに努めている。今後も、企業へ支援制度を周知し、相談に応じ速やかに関係機関につなぐなど環境整備に努めていく。